

## 7. 「とよなかブックプラネット事業」について

### 〈経緯〉

自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や豊かな人間性などの「生きる力」を理念とする新学習指導要領においては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることへの配慮が求められており、言語活動の充実が各教科を貫いて、改善の重要な視点になっている。言語活動を取り入れた学習活動を支える上では、読書活動が不可欠なものである。また、学校図書館の活用等を通してさらに情報を得て、思考を深めたり、様々なメディアの働きを理解し、適切に利用する能力を高めることも重要であるとされており、学校教育における学校図書館の活用が、ますます重要になってきている。

このような潮流とともに、市長の政策項目の1つである「読書活動日本一の取り組みの推進（蔵書の充実、学校図書館と公立図書館の連携）」を受け、「学校図書館と公共図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備することにより、児童生徒の読書活動を促進し、自ら学ぶ力を育成する」ことを目的とする、「とよなかブックプラネット事業」に着手した。

本市では、平成5年度から学校図書館専任職員の配置を順次進め、平成17年度には全市立小中学校に配置された。平成13年5月には、それまで公共図書館から各学校図書館へ月一回行っていた配本から、義務教育課の資料運搬システムに移行し、公共・学校図書館間、および学校図書館間物流が開始された。これによって、1回あたりの量的制限はあるものの、各学校図書館へ週1回の配本が実現することとなった。同年11月には学校図書館から公共図書館へのインターネットによる蔵書検索・予約サービスを開始し、児童・生徒の読書活動を支援するとともに調べ学習等の授業への資料提供を行っている。

子どもたちの読書活動をさらに活性化させるためには、現状を踏まえ読書環境をさらに充実するとともに、子どもたちの読書意欲向上に向けた取組みを一層推進することが重要であることから、これまでの取組みの成果と課題を整理するとともに、学校現場のニーズを徹底調査した上で、他市の先進事例も参考にしながら「学校図書館の役割とめざす姿」の確立とあるべき姿実現に向けた具体の施策の明確化を軸に、事業の概念設計を進めた。なお、事業の推進にあたっては、岡町図書館と義務教育課が連携し、プロジェクトチームを立ち上げ、取組みを進めた。

### 〈平成22年度の具体的な取組み〉

10月18・21日	学校図書館訪問調査（小学校2校、中学校1校）
11月8日	第1回ワーキング会議（学校図書館の現状と課題について）
11月8日	学校図書館に関するアンケート調査 （対象：管理職、学校図書館担当者、学校図書館専任職員、公共図書館司書）
11月18日	学校図書館に関するアンケート調査（対象：学校図書館を利用する児童生徒）
12月7日	第2回ワーキング会議（学校図書館の役割とめざす姿について）
12月7日	学校図書館に関するアンケート調査 （対象：学校図書館をあまり利用しない児童生徒）

12月9・14日	学校図書館訪問調査（小学校2校、中学校2校）
12月24日	第3回ワーキング会議（学校図書館の役割とめざす姿について）
1月12日	学校図書館活用にかかる先進的取組みの視察 （市川市、東京学芸大学附属小金井小学校）
1月25日	第4回ワーキング会議（学校図書館のめざす姿の実現に向けて）
2月18日	第5回ワーキング会議（学校図書館のめざす姿の実現に向けて）

また、公共図書館では、学校と連携しながら、学校図書館で常置できない様々な分野の資料をパッケージ化、一定期間各校に巡回配本することで、子どもたちに幅広い分野の資料との出会いを創出することや、教員の授業活動支援を目的に、庄内幸町図書館の2階を「学校図書館支援ライブラリー」として機能変更し、南部地区の学校図書館支援を行う方向で検討を開始した。

#### 〈取組みの成果〉

概念設計の結果、「学校図書館の役割とめざす姿」として、次のことを重要な概念として示し、取組みを推進することを確認した。

#### ★児童・生徒の「自ら考え解決する力」を育成する

学校図書館は、児童・生徒の学校生活や日常の暮らしの中でわき上がった疑問に応え、自らの考えをまとめるための支援をします。

また、このことを通じて、学校だけでなく、生涯にわたって図書館を活用できる力を育てていきます。

さらに、子どもたちが様々な情報源から必要な情報を的確に入手し、適切に活用する力を育てていきます。

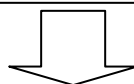
#### ★児童・生徒が「読書習慣」を身につける

学校図書館は、児童・生徒の読みたい気持ちにいつでもこたえます。

また、児童・生徒一人ひとりの読書を尊重し、楽しみをもって「読む」ことを体験させ、自由で広がりのある読書活動を支援します。

#### ★教員の学習指導を支援し、授業の質を高める

学校図書館は、教員が、個々の創意工夫により各教科の授業を改善、充実させる上でも、最も身近な情報資料拠点であり、必要な資料を収集し教材研究や授業づくりなどの支援をします。



**ふだん使いの学校図書館**

また、今後具体に取り組む方向として、次の各点を明確にすることができた。

#### ①人のネットワーク

教職員に対する学校図書館利活用法研修や、管理職も対象とする学校図書館のあり方についての研修等、各種研修の充実により、学校図書館の位置づけを明確にし、学校内で関係者の連携強化を図る。また、学校図書館専任職員と公共図書館司書の連携強化をめざし、情報交換を活発にする取組みを進める。

#### ② 物流のネットワーク

学校図書館にとって資料支援の強化に繋がる、公共図書館による支援ライブラリーに着手する。また、学校図書館と公共図書館間ならびに、学校図書館間の資料連携の基盤となる資料運搬システムのさらなる充実に向けた検討を進める。

#### ③ 情報のネットワーク（蔵書管理システムの導入）

蔵書管理システムの導入は、学校図書館専任職員の管理業務を大幅に軽減し、児童生徒や教員へのレファレンス業務の充実等教育的な支援強化に繋がる。また、求める図書や資料を容易に検索することや、学校図書館間及び公共図書館と学校図書館間の資料連携の強化、さらには、学校図書館活用事例データベースの構築による教員への情報提供の充実など、多くの効果が期待できる。利用者のニーズや豊中市として実現したいこと等を十分に検討の上で、学校図書館蔵書のデータ化ならびに蔵書管理システムの導入に向けた取組みを進める。

#### ④ 学校図書館支援機能

学校図書館に関わる様々な取組みを念頭におきながら、上記各ネットワークを統合的に支援・運用する機能の整備に向け検討を進める。

#### 〈今後の課題〉

「とよなかブックプラネット事業」は、平成 25 年度までの 3 年間を目途とした取組みとして、平成 23 年度は、詳細設計を行うとともに、具体的な取組みを着実に進めていく。取組みにあたっては、生涯学習推進部と学校教育推進部が持てる機能を生かして役割分担を行うとともに、連携強化を図るため、教育委員会に「推進委員会」を設け、進行管理を行い、「人・物流・情報のネットワーク」の確立、学校図書館支援機能の整備に向け、事業の推進を図っていく必要がある。

また、「物流のネットワーク」の根幹ともなる「学校図書館支援ライブラリー」については、全市への拡張に向け、効果性を見定め、検討する必要があることから、庄内幸町図書館での取組みを着実かつ迅速に進める必要がある。